

随想二題

フラメンコの旅

伴 須美

〈伴・同部舞踊研究所主宰〉



セビリアの広場で筆者

スペイン人の心であるフラメンコを尋ねてそのふる里のセビリヤのセマナサンタを見る。アンダルシア地方に入るともうアラブの匂いを感じる程で、建物にしる駅名にしる中世の名残りがいっぱいである。セマナサンタ（宗教行事）の祈りの歌であるサエタにしても回教のこうらの香りがたかいということはサラセン文化の名残りであろう。サエタと同じコンパスを持つフラメンコのセギリージャが中近東からの流れを持ち、タラントにはサンブラが深く根をおろしている。

ギターとそれを縫う折りにも似

た歌声は、踊る私の心をフラメンコのふる里へといざなうのは無理からぬことであろう。この旅は私に多大の収穫を与えてくれたことはいう迄もないが、この旅の面白さは風俗、習慣の違いにも大きくあらわれている。

満州生まれの私にとってはまだスペイン迄は大陸性気候がなつかしい位のもので、異国情緒とは程遠いものであったが、セブタからモロッコのテツアンに足を踏入れたとたんに、風俗、人種の違いがこれ程はつきり変わってしまうのも珍しい。女性はいくつでも顔を覆い黒い眸だけが光り、男性は頭からすっぽりと頭布つきのマントで身を覆っている。どこからか短剣でも飛んで来そうな不気味さは映画のアラビアンナイトのひとこまを思わせる。セブタ、テツアン迄はまだスペイン語が通じるが、モロッコはアラブ語とフランス語である。スペイン人のお巡りさんをつかまえて闇夜の交換のことを尋ねると、その時の相場とどの店に行けば闇商人がたむろしているかを教えてくれた上、店の前まで送ってくれた。

金が出ると次は食事である。スペインに留学中のアラブの友人に聞いていた料理名、クスクスを注文してみる。粟の上に羊肉、大根、そら豆、人参をのせて香辛料

をたっぷり使って塩味で蒸し上げたもので、右手を使って食べるのである。熱い粟を適当につかみ、指先で転がしながらピンポン玉の大きさにため、指先を口に向け親指をつかって、ポンと口の中に入れるのであるが、それがむづかしくてかたまるところか手のひらは全部粟だらけ。食べ終ると手を洗う前に汚れた指先をなめるのであるが、手のひら全部に粟をまぶしてしまった私は舌が痛くなる程ペロペロとなめまわすのである。

ラバトからカサブランカ迄はアラブ特有の白壁の建物が続き、食物にもなんとなくフランスの匂いが残っているが、マラケシュ迄行くところは本当の古都である。建物の壁の色はピンクで落ちて行く夕陽に映え街中は燃えるように美しく炎に包まれた思いがする。道を歩く人々もベルベル族の持つ野性味を加え、服装も素朴である。モロッコに入って驚いたのは便所に紙が無いことである。ベルベルの山奥の家などはカンテラを持って田圃で用をすますようになっていて、一般家庭にしる文化生活をしているといわれる小学校の校長先生のお宅にしるタイルとセメントの違いだけで作りは全部同じである。便器は一切使わず、足を置く所に煉瓦大の石が埋めてあり、うしろには直径二〇センチ位の穴が

堀り下げてあり、そこに上手に落しこまなければならぬ。終ったあとはバケツ、または美しい彫刻のある薬缶に入ってる水で後始末をするわけである。

マラケシュからメケネスに行く途中のバス停のトイレに入ると水洗便所のように上から紐が下がっている。便器もないのにと管の出口をみると、しゃがんだまま裸のおしりを洗うべく勢いよく水が飛び出る仕掛になっているのを知り、あぶない所であったと冷や汗をかく始末である。モロッコの家庭内の食事の習慣、客の前には姿をみせぬ主婦の立場、百人から二百人迄を収容する女だけのトルコ風呂は必ずビキニを着用しないと入れぬこと、等々すべて驚きの連続であるがまたの機会にゆずることにしてペンを置く。

筆者はスペインでの4年間のフラメンコの研究の旅を終え、本年7月に帰国した。

ローマ郊外の楽しみ

杉浦 祐二

△商家▽

久しぶりに帰る神戸の町をあこれと帰りのナホトカからの船の中で思い、きつとこのようなんだと育った町の色々のイメージがぼつぼつと浮んで来たものである。この三、四年間に随分変わったとは聞いていたが、帰った当座は何

だかしつとりと来ず、折りにつけローマや近郊の町々を思いだす。

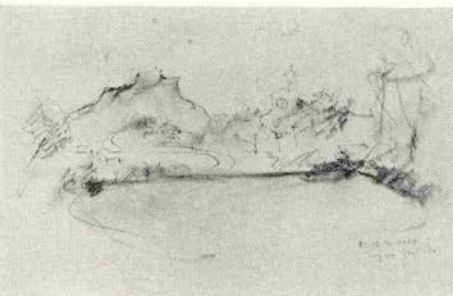
町隅のゴチックの教会や遺跡、道端の古い噴水に足を止めたり、兩岸に深い並木の繁るテベレ川、ひょっこりと町の角からのぞくパンテオン、いつも陽気なスペイン広場しゃれたビアベネットのカプチーノ……。また車で少し飛ばすと火山湖のアルバーノ、この裏手には、ローマの六甲山と私達と呼んでいたロッカ・デ・ババが連なる。

ロッカ・デ・ババ(法王の山)という所は古代エトルスクの地でもあるのだがローマの町からもっとも近く一番高く見える山である。山全体が個人のものでありぐるぐるした私道を三十分程あがると頂上の館につく。何代も前からこのビラの一部はレストランになっているのだが、私達が始めて行った時はちょうど冬の日だった。天井の高い大きなサロンには薪の暖炉

が燃え、食事を終えた二、三人の客は本や音楽を聞いていた。窓からはずつと遠くにローマの町が眺められる。壁にはこのレストランの歴史をたどる写真があり、そのほとんどは色あせていたが、主人の話によれば世界の有名人がこの地へ訪ずれたものであるようだ。

この山のすぐ下がアルバーノの湖である。火口湖のため、囲りをぐるりと切立つ山々で囲まれた山頂の湖は深い森につつまれ、その姿は特に神秘的。人をしてその内に吸込むようにさえ思われる。夏の夜の星の美しさと共にその湖面が魔法のようにほっかりと浮いていたのを忘れることが出来ない。

湖より少し行くところ、フラスカデーノの町。この町はぶどう酒のうまい所として知られるのだが、夏に飲むビヤンコ・フレスコ(新鮮な白)というのが名物。ここはリズ・テラーやカルロ・ボンテイ、ソフ・イア・ローレン等も別荘を持っていて、中でも十七世紀に出来たというビラ・フラスカデーノは町の正面の丘を一面利用した大きなもの。その庭園には馬の放し飼いや見られ、バロック風の館がそのままの姿で現存している。郊外に出た時の楽しみはその地の地酒をたしなむことである。舎の酒場はカンテーナと呼ばれ地下倉庫という所だが、年代もぶどう酒をた



ローマの六甲山、ロッカ・デ・ババ

くわえ、夏でも中に入るとひんやりして、いかにも酒蔵の感じがする。夕方ともなると町の常連が集まり、ボルケッタ（豚をまる焼きにしたものでけずって食べる）をかじりながら陽気に話したり歌ったりである。おもしろいことに、彼等の支持する政党によりまったく酒場が異なる。このような庶民的酒場はぶどう酒一リットル約二百円くらいでちょうど少し前の日本の銭湯のように人々の寄合の場になっている。時として初めての私達でも、彼らの仲間に入り歌ったり話したりするのだが、まるで十年來の友人でもあるかのように仲間に入れてしまう彼等には感心したものだ。

韓国の民話切手

棚谷篤志郎

△白石工業研究部▽



海外旅行したらお土産をたんと買って帰るのが日本の常識らしい伊丹の飛行場に行くと、かの有名なフライングノーキー団とおぼしき面々がジョニ黒三本とその他もろもろの土産を山ほどかかえて税関から意気揚々と出てくるのにお目にかかる。桃太郎以来の伝統

韓国の民話切手
デザイン
CHUNHEE HAN
印刷 1970. 5. 5



というわけかへ車につんだ宝物▽ならぬへ飛行機につんだ宝物▽という凱旋風景である。

私も仕事の関係でしばしば韓国に出かけているのだが、仕事となるとアルコールを飲む機会が多すぎて何時の間にやらサイフの方が軽くなり、残念ながら絵葉書や切手で子供達をこまかす始末である。今度買い求めた切手を調べていたら、何か物語を絵にしたものらしいので韓国の方に尋ねた所、これは韓国の有名な民話を絵にしたものだと教えていただいた。

民話について特にくわしい方ではないので多少思いちがいがあるかしらないが簡単に説明すると。

昔、昔ある所にノルブ（遊夫）とハンブ（興夫）という名の兄弟が住んでいた。或る日足を折った一羽の燕がいたので弟のハンブがこれを治療してやったところ、その燕が一粒の種をくわへてやってきた。この種がどんどん大きくなったので切ってみたところ、金や

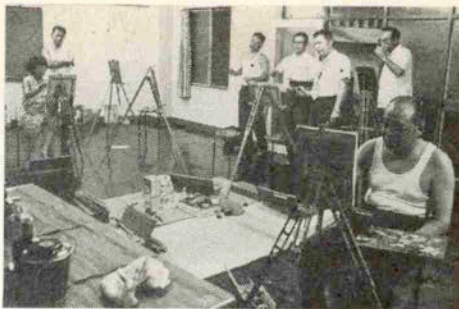
銀の宝物が出てきた。これを見た兄のノルブは一羽の燕をとらえ足を折りこれを治療してやったところ、弟の場合と同じようにどんどん大きくなる種を燕からもらったが、その中からは宝物ではなくて鬼が出てきた、という物語である。日本でいえば雀とよくばり婆さんの話である舌切雀の物語とまったく同じ内容だ。舞台設定が多少異なるが『足折れ燕』も『舌切雀』も同じ根から出た物語であろう。この足折れ燕の物語は韓国のほか蒙古、中国にも伝わっているようだ。また九州の福岡では『足折れ雀』の形で伝っているそうである。

すでに宇治捨遺物語（一二一六年）では舌切雀の形で記録されているので、これ等の物語はそれより相当に古い年代に大陸や半島の人達によって日本に伝えられ、足折れ燕→足折れ雀→舌切雀とクチコミによって少しずつ変化しながら広く日本に伝播していったものであろう。こうやって考えてみると日本固有のものだとばかり思っていた民話や民族文化なども実は数多くの桃太郎達によって海外からもたらされたものによる再構成文化だったのかも知れない。

この民話切手シリーズにはこのほか、羽衣伝説、韓国の赤づきん、韓国のシンデ瑞拉物語など興味をひく物語が絵にされている。

■ある集いその足あと

七誠会



田崎真珠 K K 青雲寮での絵画風景

いう趣旨から「七誠会」と名付けた。因に「七」は多数を意味し、誠実に満ち溢れた会にしようという気持ちをあらわしているという。

研究会は、激動する七〇年代の各界を代表する指導者の抱負経論に接し、自己啓発を図ることを目標とし、今後はとくに外交、国防問題と国際経済問題を取りあがることになっている。



絵を描き始めたきっかけは、去年の夏、東京在住の YPO (Young President Organization / 日本の青年社長の団体) の有士による絵画のグループ展が銀座のギャラリーで開かれた。中堅企業の第一線で活躍している若手の趣味を生かした幅広い活動ぶりに刺激され、文化不毛の地といわれる神戸で、経済人らが絵を描くことによって、芸術を理解できたら、神戸で生まれた異色の人々も更に伸びていくだろう。欠けていた情操面の充実一度やってみようではないかということになった。

そして、去年の十一月から、多くは学校以来始めて絵筆を持つ経済人の油絵を描く会が発足した。毎月第二、第四金曜日、会社が終って六時半頃から十時頃まで、多忙な時間を割いて、仕事を忘れカンプラスに向かう。

気の合った者同士の集い、さる

五月には東条湖畔にまで家族揃って出かけ、一日を楽しんだ。ただしご亭主方は、飯盒炊さんの準備と世話に追われ、とうとう描けずじまいだったということだが。この十月には淡路島行きの計画もあるという。

「絵を描くようになって、自分たちの知らなかった世界に足を踏み入れることができた。新しい発見の会話があるね」と南部さん。会終了後は揃って飲みに。「絵を描いたあとの一杯はスポーツをしたあとのさわやかさ」という声も出る。ギターに合わせたの大コーラスも、湧く話は多彩。

まことに多士済済、談論風発浅論尽きることのないメンバーのバイタリティが、新しい神戸の牽引力を生み出してくれることを心から願うものである。

メンバーは、砂野耕一(川崎重工) 江原慶彦(江原建築事務所) 大谷勉(大谷・長谷会計事務所) 岡崎真雄(同和火災) 小倉宗夫(小倉産業) 木下健(三富商店) 滝川博司(兵庫トヨタ自動車) 田崎俊作(田崎真珠) 樽本久(樽本産業) 藤堂高弘(藤堂真珠) 中内力(シンエーフーズ) 南部圭三(光印刷) 橋本一豊(マツダオート兵庫) 森本領二(森本倉庫) の皆さん

(この記事作製にあたっては、砂野さん、南部さんのご協力を得ました。)

J C 生活もあと一年という頃になって、J C 時代に培われた友情をこのまま終らせてしまおうのは惜しい、ひとつ勉強会でも作って、卒業後もお互いの啓発を図っていきましょう話が、南部、樽本、小倉、砂野、森本さんの間に持ち上がった。この五人は昭和四十二年度の正副理事長であり、本当に商売抜きの苦勞を分かちあった仲間であった。

そんな会なら入れてほしいと、八人が知り、十三人でスタートしたのが、昭和四十五年一月三〇日。樽本さんの誕生祝もかねて集まったメンバーが、お互い終生誠実に交友を深め勉強を続けよう

白いベールにこの愛をはぐくませて
ウェディングの鐘の音をきく……



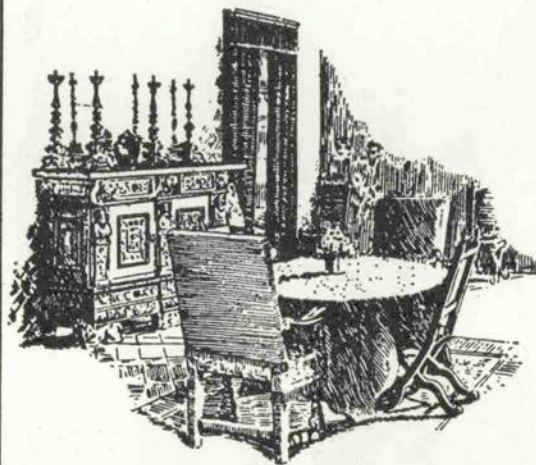
マキシンの帽子のおもとはめは
全国有名百貨店でどうぞ

婦人帽子

マキシ

神戸・トアロード 東京・銀座3-2
TEL(078)331-6711-3 TEL (03) 535-5041

家具・室内装飾・工芸品



永田良介商店

神戸市生田区三宮町3丁目大丸前 TEL神戸神戸(391)3737
(代表)

東京店・東急百貨店 {日本橋店内6階 TEL03(211)0511
本店(渋谷)7階 TEL03(462)3180

工場 神戸市垂水区多聞町小東山975-35
神戸木工センター TEL(078)706-5005(代)

ふるさとの なまりなつかし

楠 本 憲 吉

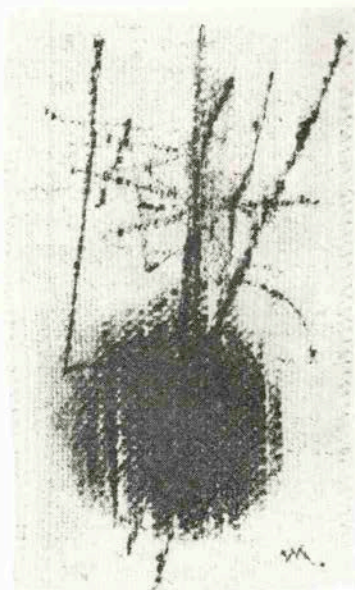
え・南 和 好

関西弁のまかり通る世の中になったのは、テレビ、ラジオなどを通しての大阪弁の普遍化、関西喜劇の進出、大阪―東京間の時間的な距離の短縮などいろいろとあるだろう。

事実、東京のバー、キャバレーのホステス、あるいは芸者衆に関西弁のしゃべれる子が少なくとも一人は絶対必要とあって、ちょっとしたタレント化の様相を呈し、新橋・赤坂・柳橋などの「島」にある銭湯では、大阪弁の若い板前が一番幅をきかせているというような話もきいた。

一口に関西弁といっても大阪と京都では全然ちがうし、大阪と神戸、あるいは和歌山、河内、奈良となるとずいぶんちがう。関西弁のなかでは大阪弁が横綱格で最も普遍的な存在だが、大阪弁の中でも北と南ではまたちがうし、北でも船場のことははさらにちがう。

私は船場で生まれ、今橋で小学校を終え、神戸の中学校を出て、京都で浪人し、東京の大学を出て現在まで二十数年東京にいたので、比較的関西弁の良さも悪さも知っているつもりだ。



谷崎潤一郎の『細雪』に出て来る関西弁、あれは阪神弁である。武原はんのそれは大阪南の花街語であり、遠藤周作のそれはデタラメだ。

いつか山本健吉氏は、大阪弁というものは悲劇に向かない。たとえば『ハムレット』の名セリフ「生き長らうべきか、死すべきか」

を大阪弁で

「生きたらるか、死んだらるか、ここが思案のしどころや」

といえぶちこわしだと書かれたことがあった。しかし、一代の悲劇作家近松の場合はどうなんだろう。

口語俳句や口語短歌で、現代語や日常の話しことばを文語脈に導入する「新しい」運動は今も盛んだが、導入されるそれはほとんど東京弁が共通語で、方言は全くといっていいほど生かされていない。話しことばを導入する以上、堂々と、その土地のことばを入れるべきではないか。

久保田万太郎氏に、

祇園のさる方にて

仰山（ぎょうさん）に猫みやはるは春灯（はるともし）

という句がある。話しことばを導入するなら、この句のように、ものの見事にやってもraithたいものだ。

私は決して関西弁の賛美者ではないが、東京弁はあまり好きではない。東京弁は関西弁より方言としてはかなりアクの強さが目立つからである。

方言の美しさは、そのボキャブラリーよりもなまりの美しさにあるのではないだろうか。そんな気がする。

このなまりというのが曲者で、一朝一夕には除

かれるものではない。よく関西なまりむき出しで、得々と東京弁を喋っているのを耳にするが不快の限りである。また、関東なまりで、妙な大阪弁を使うのにも出くわすが、これも甚だいやな感じである。

飛行機に乗ると、スチュワーデスで、関西なまりの英語を使っているひとがいるが、あれはまことにみつともない。プロである以上、なまりの矯正に心掛けるべきである。

啄木ではないが、「ふるさとの訛りなつかし」で、大阪のキタやミナミのバーや、神戸三宮のクラブで、「ふるさとのなまり」をたっぷり賞味させて貰おうと出掛けるのだが、おおむね、その期待に裏切られる。

大阪弁、神戸弁を問わず、純粹に使えるひとがいなくなってしまうからだ。つまり、大阪も神戸もマンモス化してきて、他府県の血が混入し過ぎたためであらう。

先日、木曾から名古屋へ出る車中、私の席のすぐうしろの席は、若い二人連れの女性の旅行客であった。グリーン車の椅子の背を倒すと、二人の花やかな会話が手に取るようにきこえてくる。二人とも実にきれいな大阪弁を使っているのである。盗聴するわけではないが、しばし、私はそのことばの美しさに酔い、コクのある大阪弁のよろしさを堪能することができたのであった。（俳人）



筆者

☆インタビュー／神戸を訪れた岡本太郎氏にきく

すっどんきょうないことを

—先生は「成人式で決意した事は一生変えてはいけない」とよくいわれますが具体的にどういうことですか？

「自分を意識した時点から変わってはいけない、というのが僕の持論ですが、日本のモラルでいけないのは『心を入れかえる』ということ、これは一番いけない。一度心を入れかえると、また今度いつ入れかえるかわからない。つまり今いっていることがまた空手形になっちゃう。時代が変わるといつでもそれに便乗しちゃうことに

なる。それが自分では誠実なつもりでいるけどちっとも誠実じゃない。

いつになっても心を絶対入れかえないでそれを貫いていくと障害がある。が、それをのりこえ、のりこえいくと最初に人間が目覚めた悲劇というものが素晴らしいものになる。

つまり目覚める前は人間はある意味で宇宙なんだ。自分が悲しい時は太陽も泣いている、郵便箱も泣いている、自分のうちにいる猫も犬も泣いているようにみえる。

そのうち、自分だけ

が泣いているという

時がきて、自分が宇宙

だと思っていたのが、

なんだ自分はこんな多

勢いる中のこれっぽち

なんだということがわ

かってくる。その時

の、その瞬間、自分が

宇宙であるということ

と、宇宙でない決意

する瞬間、これを原始

社会では成人式にして

いる。それは十二、三

才ごろなんだが日本で

はインチキなもんだか

ら二十才で成人式にし



「自分を意識した時から変わってはいけない」と岡本画伯

てる。あれは法律上のことであって20才というのはもう大人ですよ。個人差はあるけれども、本当は十二、三才が成人式です。

その時に決意した事を一生変えない、ということが大切なんだ。ところが、みんなこれを変えるんだな。それじゃダメ。変えろと自分がなくなっちゃう。その目覚める時つまり自分は宇宙じゃなくてこれっぽっちの存在であるということ、蟻一匹か、砂粒ぐらいの存在だということがわかってきた瞬間に自分を決意しないといけないんで、それが僕のいう成人式だ。その時決意した事はどんな悲劇的な目にあっても絶対変えてはいけない。それを貫き通すと、その人にとって素晴らしい人生になる」

——関西及び関西人への期待について一言。

「近畿というのはある意味で貿易業が中心ですね。するとここでは商業が盛んになってくる。商業というのは、商業によって儲ける素晴らしさとイヤらしさの二重性格をもっている。

堺商人というのは豊かさとインテレクチュアル、つまり知的な操作とそれによる遊びの豊かさ、と同時にじかに身を賭かけているというせつぱつまった二重性がある。だから遊び、遊びといった茶道が始まったり東西文化の接点をうまく遊びに転化していくという素晴らしさももっている。だから遊ぶこととか道楽とかには非常にたけているし、生活意欲はあるかもしれないけれども、根源的な自分というものを見失っている面もあるんじゃないかな。

堺商人の時代には今よりもっと危険をおかして商売していた。今は危険をおかさずに、伝統の上にあぐらをかいているという点がないこともない。だから関西は、生活がよい意味でも悪い意味でも趣味的になる可能性がある。

そこへいくと東京の方は官僚システムだから趣味もないし何もない。悪くいえば絶望的だ。関西に希望をもちたいんだけど、ちょっとうわついた趣味性だけで自

足しちゃっているきらいもある。

それは堺時代の伝統を守っていて、少しもそれをひっくり返そうとするエネルギーがないからかもしれない。しかも一番官僚的な政治的な中心を東京にとられてしまったから骨がない。そこに関西人の消極性もあるんじゃないだろうか。だからこのさい、人間的な形で東京にはできないことを関西人はやってやろうという気持をもっとほしい。

大阪というのは実にすつとんきょうなことやってるんだな。常識から考えればバカバカしいことやってる。東京にいくと建物みても何をみてもカチンとした実にお役所的なものしかない。だから大阪はここでこそいい意味のすつとんきょうなものをすつとんきょうにほしい。

しかし、こちらこちらになってすつとんきょうなことやっても、これはちつともすつとんきょうじゃないですよ。やはり命をかけないと本当のすつとんきょうなことはできない。

僕の願いが一つなかったことは、太陽の塔をつくったことです。誰がどう思おうと構わないけれどもあんなものは絶対世界で誰にもできないですよ。後に残るから残らないかわからないが、あんなすつとんきょうなものはない。日本人のやることはみな西欧の二番手、三番手で、それに多少日本の奈良時代とか室町時代のニュアンスをつけてちつと日本式にする、ということであって、かって日本にもヨーロッパにもどこにもなかったというようなものを誰もつくる気がない。

この関西という土地で、制約されない雰囲気の中で、もつともつといいことを、べらぼうなことを平気でやれるということを取り返してほしい。まず第一回を万博でやったから、これからもどんどんやってほしい。それがこれからの日本の文化をつくっていくことになるでしょう」

△六甲数爐屋にて 文責・編集部▽



□INTERVIEW □神戸へ来た成駒家〈中村扇雀丈〉を訪ねて

上方役者の血が騒ぐ

八月二十一日神戸国際会館で花柳芳恵一子リサイタルが開かれた。女の情念をテーマに、当代人気役者である実川延若丈と中村扇雀丈の二人を相手に、若手ホープの芳恵一子さんは、清元「かさね」と奏風楽「おさん恋暦」でおさんを熱演した。

当日、おさんの相手役手代茂兵衛に扮する扇雀丈の楽屋を訪ねた。白塗りの顔に眉毛を一本一本でいねいに描

いてゆく。緊張感と手なれたスピード感が筆にこもって快よい。ため息つくようなはんなりとした役者の顔にだんだん出来上って、その合い間をぬってのおしゃべりだ。――神戸での想い出はいかがですか。

「もう二十年前ですから長いですね。武智歌舞伎の公演が楠公前の八千代座でありまして、『鏡獅子』、『道成寺』、『お三輪』、『鳥辺山心中』、『恐怖時代』など、色んな出し

物を、今の竹之亟(当時鶴之助)と一緒にさせてもらいました。昭和二十四年、二十六年、二十七年の毎年一度づつです。私の十六、七才頃の青年期のいい思い出ですね。その頃センター街や、元町には、良いものが売っているというので、よう買物にあるきました。

それから、家内(扇千景さん神戸高校出身)が宝塚の生徒で、私も宝塚映画に出たころ、海の小扇太。だったかな。六甲山で初めてデイトしたんですよ。パーベキューをたべて、夜景がきれいだったん憶えていますね。

——十月には梅田コマで岡田茉莉子さんと「藤十郎の恋」を共演なさるそうですね。

「そうなんです。梅田コマの創立十五周年記念公演の第一回公演なんです。昭和三十二年にコマ歌舞伎が始まって、私は二十六回も出演しているのです。」

当時、私が十九才だったと思いますが、コマが出来たとき、なくなられた小林一三先生にコマ歌舞伎をやってみるといわれましたね。これからはテープ音楽の芝居時代になるから、長谷川一夫さんの東宝歌舞伎の大版をコマでやれとね。まあカブキを現代化した国民劇といった分野でしょうね。私も若かったです、東宝さんへそれから六年間お世話になりましたが、テープの芝居というものに私は手さぐりでとっくみました。今になると小林先生がいわれたように、最近では珍しくなくなりましたが、そういう先見の明が先生にあったところはさすがですね。テープの芝居は、人事費、製作費など、ぐっと安くあがりますからね。

——そうすると国民劇にずっととりくまれたわけですが、武智歌舞伎といかがでしょう。

「とにかく武智先生は、当時の私達若手役者に財産を捨ててまで、基本的な訓練をたたまれましたからね。私にとって武智先生は恩人です。芸の基本的訓練さえちゃんとできれば、後は自分自身がオリジナルを磨けば良い。武智歌舞伎、コマ歌舞伎どっちにしても芝居は一つ。私は表現が色々あってもちっとも苦労だと思いません。」

んよ」

——お父さんの鴈治郎さんの芸風を受けつがれますか。「出発点が武智歌舞伎でしたので、父から教わったことがないので。だから私の独眼流、自己流なんです。歌舞伎は先輩の芸をうけついでできたものですが、私の場合は、自分の血の中にあるものが祖父と父から受けついでものです。父から習ったものが一つもない。ボンととんで相手役になってしまつて。曾根崎心中のお初・徳兵衛の五〇〇回公演を、一昨年の顔見世でやらしていただけのようなわけですね。今年の顔見世でも一回やれといわれてるんです。」

——上方歌舞伎をどうしてもっとお演りにならないのですか？

「役者にやる気は充分あるのですよ。どういうわけか何度もお願ひしたけれど、松竹さんがやらないんです。だから上方の芝居が減ぶといわれても、役者に責任はぜつたいない。90%はプロデューサーの責任ですね。私は古典のプロデューサーが何をしようとしているのかわかりませんね。」

上方歌舞伎を松竹がやれば、ぜつたいお客は入ると思うんです。私も東宝では現代劇として、古典は松竹さんにぜひやっていただきたいと思えますね。自主公演といわれるけれど、プロなんですからやはり、商業演劇としてやりたいですよ。」

(非常に激しい口調。上方芝居を演じたいという上方役者の血がさわいであるという感じであった。我々地元ファンからしても何とか松竹さんに上方芝居の面白さをこつてり見せて欲しいものである)

——上方もののどんなものが演つてみたいですか？

「大阪芝居のばかばかしさ、和事のばかばかしさ、例えば「乳もらい」なんか演つてみたいし、近松門左衛門の描く女を演りたいですね」

——非常に扇雀さんのお芝居は「花」がありますね。

「花」があるといわれるのは、やはり普段の私生活が大事です。とにかく舞台、テレビ、映画など何にしても

どこかに生の自分がですから、どういうふうに自分の気持を持つかということになる。私は変に自分の気持をおさえないのです。自分をいつわってはダメ。常識をふまえた中で、自由に行動する。くよくよしたり陰気なことを考えたりしてはだめですね」

——三回で全部振りを憶えられるそうですね。

「何だか早いそうですね(笑)。男の仕事ということになったらそうなってあたりまえでしょう。集中力でしょ



おさんの花柳芳恵一子と扇雀の茂兵衛の道行

だから技術で「女」をやるわけです。歌右衛門さんとか玉三郎などはそういった古典的な雰囲気を持っていらつしやるのですけどね」

——「藤十郎の恋」にとりくまれる苦心どころは？

「藤十郎役は初めてなんです。一番苦心するのは、芸のためなら女を殺してもいいといった冷い男の心どう出すかということですね。その時代に、姦通罪は大変な恐ろしいことですから、その恐さがつめたさがでないとい

けないし、その上暖かい男の情もいるのですからね。岡田茉莉子さんと初めての顔合せですが、歌舞伎だけと現代風なので、楽しみにしております。」

——神戸での扇雀さんの交遊録は？

「小万さんがお友達なので時々うかがいます。センター街の呉服屋さんのふみやさんとか沢山神戸っ子の友達がいましてね。それに私は西鉄の稲尾選手と親しくしてまして、九州へ行くと彼とつきあうのですが、九州まで神戸の友達と一緒にいくぐらいですから。神戸の人は、浜っ子だからザックバランでいいです。芳恵一子ちゃんとも武智歌舞伎の頃からのつきあいだね。こうして、年に一度彼女のリサイタルの出演させていただくのはほんとに嬉しい。芳次郎さんの振付で、しっかりした恵一子ちゃんのお相手で、いい気持でお手伝いできますよ。八千代座時代のごひいきが、歌舞伎座の花道あたりへ来てくださった顔を見るとほんとに懐かしいですね」

——では、十月の「藤十郎の恋」楽しみにしております。おしゃべりしながら顔を作り、カツラをつけ、足袋

をはき、着物、そして帯、前掛けをつけると、茂兵衛のこぼれるような色気が楽屋に漂う。上方役者の心意気を歌舞伎座でほんとに観たいものである。△小泉美喜子▽

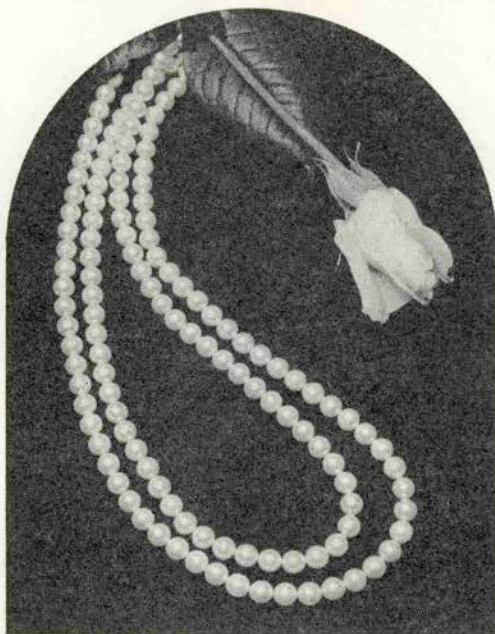
うかね。だから早く私は役になりきってしまう」

——初めてお目にかかってお話をきいていると扇雀さんは女形の姿からは想像できない程男っぽい方ですね。

「そうなんです。昔は女形は肉体から作るというって、普段から女っぽくする。元禄時代からの女形が陰間であるといった伝統があるでしょう。だけど明治以降は、技術で「女」を表現するという流れができています。陰間の伝統がいけないというのじゃなくてね。

私はオカマを好きになれない。男を好きになれない。(笑)

Kitamura Pearls



よろこびの
胸をかざる
北村パール

北村真珠店

元町通2丁目60 TEL. 331-0072

純白のもうひとりの花嫁さん

ユーハイムのウェディングケーキ、気品があつておしとやか、甘い香りで、そこはかとなく式場をつつみます。



ドイツ菓子

Falkheim's

ユーハイム

本店 三宮生田神社前

TEL (331) 1694

三宮店 三宮大丸前旧市電筋

TEL (331) 2101

さんちか店

さんちかスイーツタウン

TEL (391) 3539



男の格調が映える

秋

O-SHIBATA

柴田音吉洋服店

神戸・元町4丁目南 神戸341-0693
大阪・高麗橋2丁目 大阪231-2106

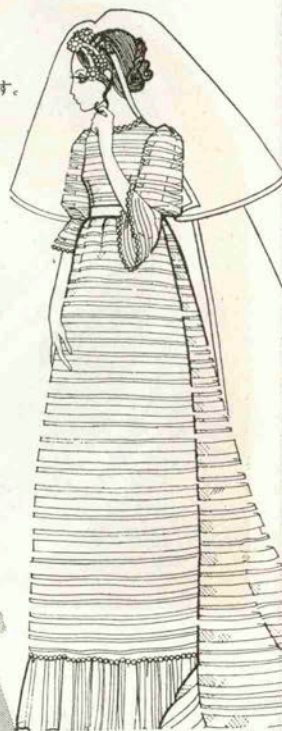
お慶びの……この秋

人生の門出を祝福する

ウェディング・ケーキは

今日の良き日の立て役者です。

¥5,000～15,000



神戸にそだって 70年



風月堂

元町3丁目 TEL391-2412～5

さんちかスイーツタウン TEL391-3455

☆神戸っ子対談

先を見越した街づくりを

滝川 勝二（兵庫トヨタ株式会社）

永田 良一郎（永田良介株式会社・神戸木工センター理事長）

★カネキ自動車が生みの親

永田 兵庫トヨタさんはカネキ自動車の頃からいました

てもだいぶ古いですね。前に古い「神戸っ子」という雑誌をみせてもらいましたら、ブラジレイロという喫茶店や大丸宣伝部の塩路義孝さんの名前なんかもならんでた



滝川 勝二 氏

んです。その頃、何かおもしろい雑誌を出そうじゃないかというんで、月に十円づつもちよって百円ぐらいでつくった。「神戸ッ子」という同じ名前前で昭和九・十年頃に出てたんですが、それにうちの親父やカネキ自動車さんのところが入ってやっておられたんです。

滝川 ほう、そうですか。そういえば塩路さんが中心になってやってましたね。

永田 カネキ自動車といってたのはいつ頃ですか。

滝川 親父がマツチ工場を経営していまして、そのマツチの工場で使う機械をこしらえたり、修繕をしたりしておりました。「カネキ」というのは、アメリカに「カーネギーアイアンワークス」という大きな会社がありましたが、それからとったんだと親父が説明してくれたこともあります。

それから親父は奈良県の出身で、養子でこっちにきたんですが、山をもっておりまして。そして山の境界線を決めるのに十間から十五間おきに木の幹を削って印をつけておいたんです。親父の名前は儀作というんですが、自分の持山の名前に、昔大工さんがもっていた金差しの「金」を書き、その中にカタカナの「ギ」を書いて、その印のついた木をずうっとたどって歩いた間が儀作の持山だということになっていたんです。昔は気楽なもんだったんですね(笑)その両方をもじって「カネギ」といった。昔は「カネギ」といってたんですが、誰かにいいにくいといわれて「カネキ」としたらいいんです。

最初、カネキ製機所をもとして昭和二年にゼネラルモーターズが大阪に組立工場を作った時に「株式会社カネキ自動車商店」をシボレーのディーラーとして発足させたわけですね。戦前親父のマツチの事業が内地よりも北支に重点がありましたので、青島、斉南、上海などに工場をこしらえてました。だからその工場の所在地にカネキ商店が出張所をこしらえて中古車を出してたんですが、それが戦争でみなダメになってしまった。

トヨタのディーラーにかわった時にもカネキという名

前でやってましたが、大東亜戦争が始まる時分に統制会社ができましてので、カネキは部品商を相当手広くやっていました。正式に言えば「兵庫県自動車整備配給株式会社」と「カネキ自動車商店」と二本立になっていました。「兵庫トヨタ」は私の時代になってできた会社ですが「カネキ」というのは親父がつくったものですから、親父としてはその名前に非常に郷愁があつたわけです。十年程たつて名古屋のトヨタのメーカから、もう一軒兵庫県に販売店をもってくれといわれた時に、「全部お前にまかすけれども、社長にはならんといってくれよ」といわれて、今西村治三郎さんが社長をしている「神戸トヨペット株式会社」というのを創立せずに、カネキ商店の商号を変更したんです。だから戸籍上は神戸トヨペットが、私の父のつくりましたカネキ自動車商店を継承したわけですから、神戸トヨペットの方が歴史はだいぶ古いですね(笑)

★神戸に副都心はいらない？

永田 この十一月に三宮に新社屋をもってこられるそうですが、これは何周年かを記念して建てられたわけですか。

滝川 いいえ、そうじゃないんです。戦争の前に、日産もいらずも部品商もいっしょになれといわれて、あの統制会社みたいなものをこしらえたんですが、それも戦争で負けてまた元の姿に戻ったのが昭和二十一年です。だから今年でちょうど二十五年になるのですが、新社屋を三宮にもつてきますのは二十五周年に関係なく、偶然そうなったんです。長田地区というのは自動車の本社の所在地とか営業所としてはあまり適当ではないんじゃないかと思うんです。こんなことと叱られますけど(笑)今の場所は住宅街でもなければ商店街でもない。何か特色のない街のような感じがして、自動車の修理場としてはいいかもしれないが、販売所としてはふさわしい所ではない、ということ数を数年前から考えておりました。



永田良一郎氏

都心もありますが、神戸は環状線になっていないもんだからでにくい。戦前は新聞地を中心にありましたが、それがだんだんと東へ移ってしまいましたね。

滝川 だから長田に社屋を置いていてもダメだという考えになってきたんです。そのくせ一方では副都心協議会の会長をしてるもんだから大変つらい(笑)

いくら考えても神戸に東京や大阪のような副都心はできっこないですね。神戸自体が廊下のような細長い街ですから。結局何年かして三宮がパンクしそうになった時に自然発生的に横へ拡がっていくでしょう。

昔の城下町は自然発生的にできたものであって、近代都市はつくるものだ、といいますが仲々そううまくはいきませんね。

私は大正六年頃にマツチ工場を経営していたのですがあの頃はのんびりしてました。

現在の時点だけをとって考えてみますと、東へ、つまりあまりにも三宮へ集中しすぎているように思いますねこれからは中小企業というのは大変ですよ(笑)その中でもまだ工業の方はいろいろと生きる道があるように思うんですが、商業の方はしんどいでしょうね。私は新長田駅を中心にした副都心の協議会の会長をしておりますので立場上具合が悪いんですが(笑)あの神戸デパート一つとってみても成功だとはいわれませんね。

永田 三宮への集中がはげしいので、長田を中心とした副都心計画を立てていられっしゃるようですが、果して神戸に副都心というものが要なんでしょうか。

滝川 東京とか大阪のような環状線になっている街でしたら、池袋、新宿、渋谷といった副都心もできますが、神戸のような細長い街だったらできないんじゃないかな。私は「副都心的」という言葉を使っていますが(笑)

永田 神戸には副都心は必要ないという気もするんですがね。大阪には梅田、天王寺、また南の難波といった副

★空港をポートアイランド沖に

滝川 これは前からメーカーがいつてましたが、総生産台数の二割程度を輸出するのが健全経営ですね。しかし二割程度が健全経営だといっても、それがだんだんと三割になり、内地のマーケットが低下するものだから、つい最近四割程度までいった時に、ニクソンのドル・ショックがきたわけです。

永田 輸出にだいたい1/3ぐらいが限度でしようね。

滝川 メーカーは二百万台の生産計画を立てまして、内地で百四十万台売って、残りの六十万台を輸出すると、これはちょうど1/3ですね。しかし内地でどうしても百二十万台ぐらしか売れないので、六十万台とやってた輸出台数が七十万台は軽く突破するところまでいったんです。ところが急にアメリカに横づらはられたので困ってるんですよ。ドル・ショックで八月なんかは売上げがずい分落ちてる。

永田 かけ声だけでびっくりしてしまふんですね。私のとこは輸出をしておりますので、みな案外のものびりしておりますが、不景気になってくると、いろんな影響が出てくるでしょう。あのニクソン声明は、抜き打ちで真珠湾の仇をとられたみたいなんですね（笑）

滝川 確かにそうでした。戦後、アメリカが日本をいろいろと保護してきたんだが、それがいつのまにか自分より大きくなってしまったもんだから、アメリカとしてもちよつとしゃくにさわるんだらうね。「イレブン、イレブン」といっとるから私は「11 PM」のことかと思つてたら違ふんだね。十のもう一つ上ということだ

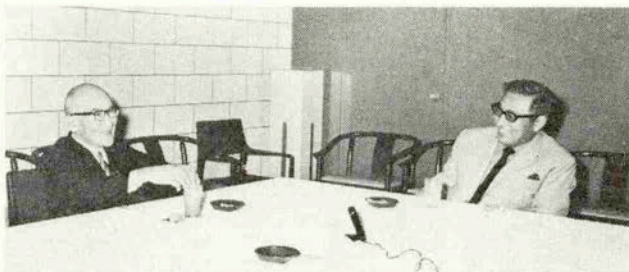
（笑）

永田 日本人は終戦後、経済復興のためにやみくもに働いてきたからこうなったんで、意識的にエコノミックアニマルになったんじゃないですかね。やはり日本人の勤勉さがこうさせたんでしょ。

滝川 それはそうですね。日本人の勤勉さと努力のせいですよ。

ところで、最近関西第二国際空港問題がやかましく論議されていますが、この空港がどうなるかというところがこれからの神戸の運命を決めるような気がしますね。第二空港を名古屋なり九州なりへもっていつてしまったら神戸というのはとりえのない街になってしまうような気がするのです。

永田 明治時代の神戸の開港というのは神戸を大変発展させるのに役立ちましたでしょう。だから私は空港ができるというのは第二の開港だと思ふんです。神戸というのは、今までは海港と結びついて発展を上げてきました



「昔はのんびりしてましたよ」と滝川さん（左）と永田さん

が、こんどは空港をつくることによってもう一ぺん飛躍することができると思っています。今後の都市というのは何かそういう強力な特色をもたないことには都市として発展していかないんじゃないでしょうか。

滝川 公害なんかかわん、といって明治時代の漁村に戻っていくのだったら別だけど、そんなことは考えられないですからね。

永田 明治時代に汽車が通るといったら、「あんな火の吹くような車、わしのとこ通られたらかなわん」といった所と同じ運命をたどると思うんですよ。東海道線では岡崎が汽車通ってないでしょう。山陽線では山口がそうですね。それを今では非常に不便を感じてゐるんです。

公害というのが流行語みたいになつていて、錦の御旗のように何でも通るオールマイティなことと考えられているのはちょっとおかしいと思いますね。

滝川 前の商工会議所会頭の浅田さんが、海上に浮きドックみたいなものをこしらえたらどうか、といつておられましたね。

永田 あれは川崎重工で検討したこともありますが、海の上に浮かべて飛行機を発着させるのは技術的に無理もあるようです。

滝川 揺れたらやはり発着しにくいだろうな。降りる時に滑走路が上へあがつてきた

りしたら具合が悪い（笑）

永田 日本の玄関口としての神戸、というイメージからみますと、ぜひとも空港をポートアイランド沖にもつてきてほしいですね。

滝川 空港は神戸のためにつくるんじゃないくて、日本の国全体のためにつくるんですから、政府も国民ももっと積極的な姿勢で臨んでほしいですね。（文責・編集部）

経済ポケット ジャーナル

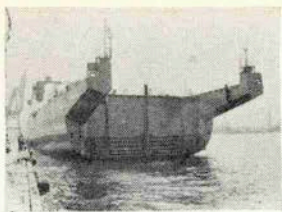
★初のラッシュ船

神戸港に入港

コンテナ船に次ぐ、第二の海上輸送革命」といわれるラッシュ船が八月三十一日早朝神戸港に入港した。

ラッシュとはライター・アボード・シップ（はしけ積載船）の略語で、親ガメが子ガメを背に乗せるように、荷物をはしけ（ライタ）こと船に積み、入港する者にはしけを海上に降ろして荷役をする船である。

今度神戸に入港したのは米国、パシフィック・ファースト・イースト社所属のラッシュ船トーマス・E・カフ号（一七・六七六重量トン）



入港したラッシュ船カフ号

で、摩耶ふ頭第4突堤に着岸と同時に巨大な五百トンクレーンで六隻のカラはしけをつぎつぎと船尾からおろし、午前中に予定通り荷役を完了した。

荷役の手間を省くのが目的のラッシュ船が、荷役を業とするはしけ業界およびその労働組合と利害が対立することは避けられないがカフ号も横浜港ではしけ業者の強い反対にあつて入港できず、神戸港では台風直後に抜きうちのやつと入港した始末。

海上輸送はコンテナ船の出現以来急激な革新を続けているが、今後の展望と共に業者や組合をも含めた総合的な対策が望まれる。

★神戸商工会議所が「中国問題研究会」を新設

神戸商工会議所は、この程経済政策委員会の内部に「中国問題研究会」を早急に設置することを決めた。これはニクソン訪中に続いて、九月中旬には訪中関西財界代表団が発、また



秋の国連総会では中国の加盟が焦点になるなど、中国をめぐる国際情勢が大きく変わろうとしているため、経済界の立場から中国問題に前向きに取り組もうというもの。

経済団体ではすでに関西経済同友会が常設機構として「中国問題懇談会」、神戸経済同友会が「中国問題委員会」を今春から発足させているが、商工会議所がこうした構想を設けるのは神戸が初めてである。

来春には国貿促神戸支局を中心に神戸経済界の訪中団派遣が検討されているだけに、この研究会の設置を契機に神戸商工会議所態度の決定がかなり前向きに検討されるようになるものと思われる。

★兵庫日産自動車㈱の新社屋完成

今まで各所に機構が分散



完成した兵庫日産新社屋

していた兵庫日産自動車㈱（嘉納正治社長）の新社屋がこの夏、葺合區協浜に完成した。

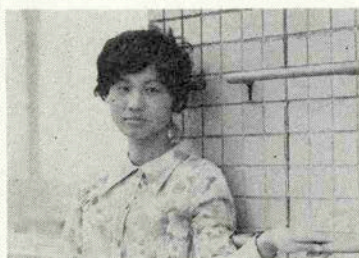
新車、中古車、部品などの販売部門の他、最新鋭の機械工具を完備したサービス工場も併設されており、有機的、総合的な販売活動サービスが行えるようになった。

新社屋は鉄筋コンクリート造地下一階、地上六階、塔屋二階建て、敷地面積は一四六・二三㎡、所在地 神戸市葺合區協浜三丁目十番地

TEL (〇七八) 二五一

一五五二三(代表)

★KOBE オフィスレディ★



内 藤 恵 津 子 さん
〈兵機海運株式会社経理部〉

下町に育つうち、何か日本女性としての作法を身につけたいと習いはじめたのが茶道と華道もう8年になる。仕事から離れてホッとした時何かイヤな事があった時、静かに座っていると自分を見つめる事ができ、休らぎを得ることができるとおっしゃる。(24才)野田高校卒

おんがら屋



きものと細貨

おんがら屋

神 戸

西 店/三宮センター街・電話 331-8836(代)

東 店/三宮センター街・電話 331-0629

三宮店/さんちかタウン・電話 331-4303

東 京

銀座店/銀座並木通・電話573-5298(代)

渋谷店/東急本店・電話462-3409(直)

日本橋店/東急日本橋店・電話211-0511(代)

(5 隣和装名家街)

(内線294)

麗わしい慶こびの日のために



エリザベス

畑尾 芙久子

三 宮 店 三宮神社山側三上ビル2階 <331>4917
 婚礼衣裳部 生田神社前(元本店美容室) <331>3258
 芦屋支店 芦屋市阪神芦屋駅前 <22>4067
 西 宮 店 西宮市阪急西宮マンション北館1階 <67>1294
 美容担当 (東京初代遠藤波津子直流) 専属結婚式場
 生田神社・オリエンタルホテル・阪急六甲山ホテル・住吉
 学園・蘇州園他

超電導送電

諸岡 博 熊

△阪神外貿埠頭公園工務部長▽

わが国の電力需要を現状から推測すると、火力、水力、原子力などの各種発電所を大量に建設していかないと、今後十年間の伸びに對して応じきれなくなり、エネルギー需要は大変なこととなるといわれている。

ところが、発電所規模は一カ所当たり年々増大している。新規着工は、大気汚染、水質汚漏などの公害発生源となるため、地元住民の反対にあい新設立地難となっている。

公害のない発電所技術開発の一環として、通産省・電子技術総合研究所では、『超電導性』（マイナス一五〇度C以下に冷却された金属は極限に近い一定の低温になると突然電気抵抗を失ない、一度だけ電流を流してやると、電池や発電機で電圧をかけていなくとも、永久に電流が流れつづけ、いくら大きな電流を流しても発熱しない性質。もし常温で超電導性をもつ合金が作られれば一大革命であろう。）の研究開発を実施している。これは、小さな規模で大出力が得

れらかつ無公害という特徴をもつ。

同研究所が最近開発に成功したものは、ヘリウムと窒素の超電導の極低温電導エネルギー・システムである。

× × ×

世界的な傾向は、超電導エネルギー・システムとして、発電機・変圧装置・ケーブルをまとめて総合的に冷却するのであるが、日本の場合、これを個別に局部冷却しようとするものである。

それは、発電所から液体ヘリウムや液体窒素を循環ポンプで、変圧装置やケーブルに送る従来の方

法では、ポンプの製造技術や長距離移動したため温度の上昇したものの再冷却装置に問題があつて、理想的なものは、経済的に実用化しにくいといわれている。ところが、個別冷却法では送電ロスが少しあるが、技術的には実現が容易である。

× × ×

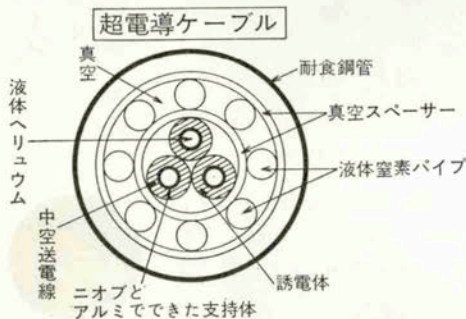
個別冷却のシステムの概要は、
①発電機——超電導磁石だけを、液体ヘリウムの極低温室に入れて冷却する。回転部は一般のものと同じ構造で、磁極接片板をマグネット板で包む。

②変圧装置——変圧器全体を液体ヘリウムと真空スパーサーでできた極低温室に格納し容量を増加させる。

③ケーブル——中空送電線三本を重ねて一本のケーブルとする。中空管内に液体ヘリウムが入っていて、ニオブとアルミ製の支持体の上側に誘電体がついている。この液体ヘリウムは三本の送電線のすき間から戻り再冷却されて循環する。

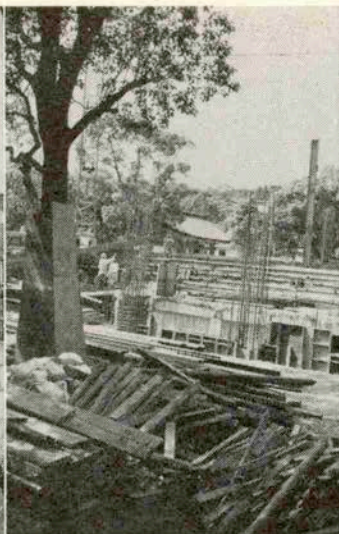
三本の送電線の外側に真空のスパーサーがあり、さらにその外側を液体窒素のパイプが通っている。液体窒素パイプの外側に真空スパーサーがありアルミ箔を張った耐食鋼管で保護されている。

(図は超電導ケーブルの断面図)

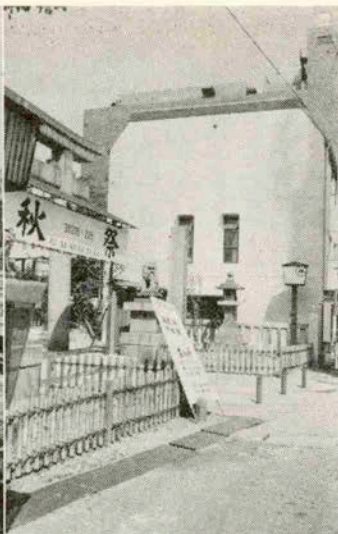




中山手ステラマリス海員センター



湊川神社境内に建築中の湊川能楽殿



生田神社えびら会館

神戸のアーバンデザイン 市民のこころの広場Ⅱ

水谷顕介＋チーム・UR

55

●教会にサロンが……。中山手教会にはステラマリス海員センターという施設があって、外国船員の人たちのいこいのパブになっているそうです。港神戸には世界各国からの船が出入します。その船員さんたちが集まるインターナショナル広場とでもいった機能でしょう。

●生田神社の広場に、えびら会館なる建物が付設されました。いくつかのお店、居酒屋、それに画廊などが配置されています。屋外広場のもつ機能の一部が屋内化された、とでもいったものでしょうか。勿論、この立体屋内広場を建てたからといって、屋外広場が不用になるわけではありません。

●近く、湊川神社に能楽堂が完工します。能楽専門家ならずとも一般の文化愛好者にとっては待望の一席です。かつての好戦派大楠公のシンボルに

代る新しいイメージを期待できるからでしょう。

●これらは、どちらかという忘れつつある宗教施設の空間の効用をしっかりと再生しつつける実行例です。

こういった各施設が長い時間を通じて神戸の街に生きつづけてくれることによって、神戸の街のあちこちに活動する広場が存在することになります。

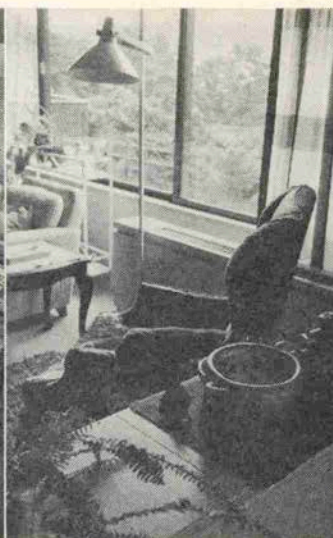
広域にサービスするこういった機能に限らず、近隣や子供たちにも働きかける活動施設を育てていくことによって、現代社会への姿勢を積極的に打ち出していくことが要求されているのです。

(水谷顕介)

ハイセンスな住い〈河崎邸〉
神戸のモダンリビング

(55)

水谷顯介+チーム・UR



▲良い家具が配置された広い居間と食堂

▲ゆったりとしたソファから大阪湾をのぞめる

▲うすい土色の外観をのぞむ

☆芦屋の山の手の、大きな赤松の林の中に小さい
が深い谷があります。この谷に面した急斜面の土
地が面白い。曲りくねった急な坂道を登ると、銅
葺の屋根に、うすい土色の外壁が目に入ります。
入口の横の庭に山吹色のコスモスが咲き乱れ、そ
の中に石造りの大きな羊が置いてあります。

お宅を訪門すると、その羊ぐらゐの大きな犬が
尾をふって歓迎してくれました。ベルを押すと、
紫色のパンタロンに、しゃれたブラウスの河崎さ
んが迎えて来れました。玄関には竹籠の中にカラ
フルなスリッパが入れられ壁も天井も白一色に統
一された 広い 居間と 食堂に 招じ入れてくれまし
た。大きな窓からは谷と松の林に枠どられた、大
阪湾と浜を走る高速道路が眼下に広がる眺望が楽
しめました。

ベージュ色のゆったりとしたソファー壁には色

々の絵が吊がっていました。居間と食堂の間に高
窓がありそこから緑のかずらがぶらさがり低い白
いサイドボードとともになんとなく一体の居間と
食堂をくぎっていました。

白いベースの空間の中に青や黒のローソク、趣
味の良いカーテン色々な緑の植物、それに家具が
無雑作にしかしハイセンスに置かれ、住んでいる
人達の生活が又豊かな会話が想像されました。

(武田則明)